

教科名	技術家庭	科目名	家庭	履修学年	中学・高校	1年	A～E	組	
単位数	1	使用教科書 補助教材等	技術・家庭 家庭分野（開隆堂）						
担当者	横山 ほなみ								
学習目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。								
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。		これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。				
各観点の授業内 評価方法等	定期考査 作品		レポート ワークシート		レポート プリント				
学期末の 各観点比率(%)	40%		40%		20%				
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間 数	評価 区分 1	評価 区分 2
1	4	生活行為と空間 日本の気候風土と住まい					2	期末 考査	
	5	家庭内事故への備え 災害に備えた空間					3		
	6	間取りのデザイン 平面計画					4		
	7	平面計画					1		
	8								
2	9	衣服のはたらき 衣服の繊維 衣服の手入れ					3	期末 考査	
	10	洗濯の準備 既制服の選び方 自分らしい着方					3		
	11	生活を豊かにするものの製作					4		
	12	和服の文化にふれてみよう					1		
3	1	製作の基礎基本					3		
	2	持続可能な衣生活					2		
	3								

教科名	技術家庭	科目名	家庭	履修学年	中学・高校	2年	A～E	組	
単位数	1	使用教科書 補助教材等	技術・家庭 家庭分野（開隆堂）						
担当者	横山 ほなみ								
学習目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。								
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。		これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。				
各観点の授業内 評価方法等	定期考査 作品		レポート ワークシート		レポート プリント				
学期末の 各観点比率(%)	40%		40%		20%				
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間 数	評価 区分 1	評価 区分 2
1	4	食事の役割 健康によい食習慣					2	期末 考査	
	5	中学生に必要な栄養を満たす食事 調理実習1、2					3		
	6	様々な食品とその選択					4		
	7	地域の食文化					1		
	8								
2	9	幼児の生活と家族 幼児の体と心の発達					3	期末 考査	
	10	幼児の遊び 発達にとっての大人の役割 子どもの成長と地域					3		
	11	家庭生活と消費 商品の選択と購入					4		
	12	消費者被害と消費者の自立 持続可能な社会					1		
3	1	製作の基礎基本					4		
	2								
	3								

教科名	技術家庭	科目名	技術	履修学年	○中学○高校	1年	A~E	組	
単位数	1	使用教科書 補助教材等	技術・家庭 技術分野 (開隆堂)						
担当者	清水 義雄		正進社 ハンドノート「材料と加工の技術」						
学習目標	・基礎的・基本的な知識及び技能を習得することを通して、「材料と加工の技術」「生物の育成の技術」についての学習を行う。また、技術と生活や環境との関わりについての理解を深め、思考力・判断力・表現力を向上させ、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を身につける。								
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	ものづくりなどの実践的な学習活動を通じて、材料と加工、生物の育成に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得する力を身につけている。技術と生活や環境との関わりについて理解を深める。		思考力・判断力・表現力を身につけることとで生活の向上や改善に積極的に取り組み課題を解決する力を身につけている。		技術と生活や環境との関わりについて理解を深めようとしている。				
各観点の授業内 評価方法等	定期考査 実習、作品 ハンドノートの取り組み		定期考査 実習、作品 レポート ハンドノートの取り組み		実習、作品 ハンドノートの取り組み				
学期末の 各観点比率(%)	40%		40%		20%				
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	材料と加工の技術	木材、金属、プラスチックの特徴と性質 構造をじょうぶにする技術			3	加工技術 ・ ハンドノート	期末考査	
	5	図のかき表し方 生物育成	立体図(作図、感想レポート等) さまざまな生物育成の技術 技術レポートの作成			4			
	6	ペンスタンドの製作 (製作1)	材料の準備(スギ、ひのき、スプルス、ソフトマホガニー) 基本の加工の技術 けがき 下穴あけ、切断			5			
	7		切断、仮組立て 組立て(木工用接着剤、釘打ち)			3			
	8								
2	9		下地作り(紙やすりがけ) 塗装(水性ニス) 実習の振り返り			4	加工技術 ・ 作品	期末考査	
	10	小物入れの製作 (製作2)	材料の準備(杉) けがき(さしがね) 下穴あけ(キリ)			4			
	11		切断(のこぎり) 切削(ハンドサンダー)			4			
	12		やすりがけ(形状の工夫) 仮組立て			2			
3	1		組立て(木工用接着剤、釘打ち) 下地作り(紙やすりがけ) 塗装(水性ニス)			3	品 ・ ハンドノート	まとめレポート	
	2	学習のまとめ(作図、課題と感想レポート)				2			
	3	材料と加工の技術と私たちの未来(木材の有効活用、SDGS等)				1			

教科名	技術家庭	科目名	技術	履修学年	中学・高校	2年	A～E	組	
単位数	1	使用教科書 補助教材等	技術・家庭 技術分野 (開隆堂)						
担当者	清水 義雄		正進社 ハンドノート「エネルギー変換の技術」						
学習目標	・基礎的・基本的な知識及び技能を習得することを通して「エネルギー変換」についての学習を行う。また、技術と生活や環境との関わりについての理解を深め、思考力・判断力・表現力を向上させ、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を身につける。								
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	それぞれの部品の働きを学び、エネルギーをどのように変換して利用しているのかを理解する力を身につける。		製作を通して、電気エネルギーのいろいろな発電方法を学び、電気エネルギーを効率よく使用するにはどのようにしたら良いかを考えさせる。		技術と生活や環境との関わりについて理解を深めようとしている。				
各観点の授業内 評価方法等	定期考査 実習、作品 ハンドノートの取り組み		定期考査 実習、作品 レポート ハンドノートの取り組み		実習、作品 ハンドノートの取り組み				
学期末の 各観点比率(%)	40%		40%		20%				
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分	評価区分
1	4	エネルギー変換の技術	生活や社会でのエネルギー変換 エネルギー資源の利用			3	加工技術 ・ ハンドノート	期末考査	
	5	電気エネルギーの利用	いろいろな発電方法(再生可能エネルギーの利用) 電気エネルギーの特徴 電気の利用			4			
	6	人感センサーライト (製作1)	部品確認・準備 センサーのはたらき(人感・光センサー) 安全作業について 電子部品と電気回路			5			
	7		はんだづけ練習 電子部品はんだづけ			3			
	8								
2	9		電子部品はんだづけ 組立てと点検 実習振り返り			4	加工技術 ・ 作品	期末考査	
	10	手回しラジオ (製作2)	電気機器の安全な利用・保守点検 部品確認・準備 エネルギー変換の実験			4			
	11		ダイナモ発電機のしくみ 力の伝達(歯車) 電子部品はんだづけ			4			
	12		組立て・点検			2			
3	1		実習振り返り(スケッチと感想) エネルギーレポートの作成 (いろいろな発電方法)			3	品 ・ ハンドノ ー	ま と め レ ポ ー ト	
	2	学習のまとめ(エネルギー変換について)				2			
	3	エネルギー変換の技術と私たちの未来(持続可能な社会の実現)				1			

教科名	家庭	科目名	家庭基礎	履修学年	中学 高校	1年	全組		
単位数	2単位	使用教科書 補助教材等	家庭基礎 自立・共生・創造(東京書籍)						
担当者	横山 ほなみ 堺 佐和子								
学習目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。		生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。				
各観点の授業内 評価方法等	定期考査 プリント(気付いた事を書いていく) 計算(カロリーやり払い)		レポート グループディスカッション		レポート プリント 発言				
学期末の 各観点比率(%)	40%		40%		20%				
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	生涯を見通す 人生をつくる 自分を見つめる 青年期の課題 自立した生き方 「人生100年」時代を生きる 家族に関する法律 労働と生活時間 ジェンダー					2	中間考査	
	5								
	6	超高齢化社会を共に生きる 高齢期の長期化 高齢期の健康と自立 経済的な課題と年金制度 介護サービス					5	期末考査	
	7								
	8								
2	9	食生活をつくる 青年期の食生活の課題 食事と栄養素 炭水化物 脂質 たんぱく質 無機質 ビタミン 食品の衛生と安全 食事計画 調理の基礎 調理実習					3	中間考査	
	10								
	11						住生活をつくる 快適で安全な住生活	4	期末考査
	12								
3	1	経済生活を営む 消費生活と意思決定 消費者の権利と責任 購入・支払いのルールと方法(クレジット やり払い) 家計管理(資産形成) 子どもと共に育つ 子どもの育つ力を知る、子どもと関わる これからの保育環境 衣生活をつくる 被服の購入と管理					3	期末考査	
	2								
	3								